

NOVEMBER 3

ONE HEALTH

ワンヘルスの日 DAY



「ワンヘルスデー（One Health Day）」は、
人と動物、そして私たちを取り巻く環境の
“つながり”に注目する特別な日です。

この日は、世界中の人々が
「すべての生き物の健康はつながっている」
という考えを大切にし、より良い未来のために
協力しようという思いを共有します。

そして、非政府組織や市民団体、世界保健機関（WHO）などの
国際機関も参加し、ワンヘルズ・アプローチを
広めるためのさまざまな活動が行われます。

ワンヘルス (One Health) とは

ヒトの健康も、動物の健康も、
そして地球環境の健全さも、すべてつながっています。
このため、これらを「ひとつの健康」として
守っていかなければならないという考え方です。

この考え方は20世紀初頭から存在していましたが、
2000年代以降、鳥インフルエンザやSARSなどの
人獣共通感染症の拡大をきっかけに再び注目されました。

そして2020年からの新型コロナウイルス感染症の
大流行により、「人と自然の関係を見直す必要性」が
世界中で、一層強く意識されるようになりました。
コロナ禍を通じて、こうした感染症が人類全体に及ぼす
影響の大きさを、私たちは実感したのです。



いま直面している課題

近年、森林伐採や都市開発が進み、
野生動物の生息地が失われています。

その結果、人と野生動物の距離が縮まり、
新たな感染症が生まれるリスクが高まっています。

また、抗生物質の使いすぎによって広がる

「薬剤耐性菌（AMR）」の問題も、

人・動物・環境すべてに影響を与える重要な課題です。

こうした状況を受けて、WHO（世界保健機関）や
FAO（国連食糧農業機関）、WOAH（国際獣疫事務局）、

UNEP（国連環境計画）など国際機関が協力し、
世界的に「One Health」の取り組みを進めています。

日本でも、医療・獣医・環境等の専門家が連携して、
感染症対策や自然保護に取り組む活動が広がっています。



なぜ今、One Healthが重要なのか

自然を壊せば動物の健康が損なわれ、
やがてその影響が人間社会に跳ね返ってきます。

気候変動や生物多様性の喪失が進む中で、
「人の健康」だけを守ることはできないのです。
私たちは日々の暮らしの中で、環境や動物との
「つながり」をどれだけ意識できているのでしょうか？

病気や健康を考えるとき、
自然との共存を忘れてはいないでしょうか？

11月3日の「One Health Day」は、
人・動物・環境の健やかな共生を考える日です。

一人ひとりの小さな行動が、
地球全体の健康を支える力になります。

